

ベトナム原子力発電視察団・団員名簿

平成 10 年 12 月 22 日
(社)日本原子力産業会議
(敬称略・順不同)

森 一久 (社)日本原子力産業会議副会長

岩越 米助 日本原子力発電(株)顧問

峰松 昭義 東京電力(株)原子力技術部長

黒田 正夫 関西電力(株)原子力・火力企画部長

奥野 耕三 日本原子力発電(株)開発業務部長

伊藤 豊 (社)日本原子力産業会議・国際協力センター主任

以 上

3元

ベトナム原子力発電視察団
日程 (案)

(社)日本原子力産業会議

平成11年(1999年)

1月	6日(水)	9:40 - 13:50	成田→香港 (CX509)
		14:55 - 15:55	香港→ハノイ (CX791)

7日(木)

* ベトナム原子力委員会(VINATOM)を
はじめ、政府機関訪問(セミナー及び
意見交換)と政府高官への表敬訪問

8日(金)

9日(土)

10日(日)

11日(月)	10:00 - 12:45	ハノイ→香港 (CX790)
	15:20 - 20:20	香港→成田 (CX500)

以上

ベトナム原子力発電視察団の派遣について(案)

平成10年12月22日
(社)日本原子力産業会議
国際協力センター

ベトナムではこのほど1996年以来実施してきた原子力発電の導入に関する総合的な調査をまとめ政府に提出した。これによれば、ベトナムの電力需要は現在の150億kWhから2020年には1400～1800億kWhに達すると見込んでおり、エネルギーの海外依存度をできる限り抑えるには、このうち200億kWh程度（総容量で300万kW）を原子力でまかなうべきとしている。このため、初号機を2010～2020年に運開する必要があると、政府に対して、原子力発電の導入方針を早期に決定するよう勧告した。

ベトナム原子力委員会をはじめ関係機関では、政府の決定があり次第、本格的な原子力発電導入可能性の調査（FS）とサイト調査にとりかかる計画で、目下、諸外国の機関等に協力を打診中である。

本年11月、ベトナム原子力委員会から原産に対して、同国の原子力発電計画に関する総合的な助言と今後の協力問題について話合うため、電力会社の専門家の派遣要請があった。

このため、原産では平成11年1月6日から11日まで、原子力発電の関係者による視察団を編成、派遣し、ベトナムの総合調査の内容とその背景を把握するとともに、同国の計画の進め方に対して総合的な助言を行なうことにより、今後の協力の検討に資するものとする。

以上

原産関係のベトナムとの主な交流

- | | |
|--------------|--|
| 平成 2 年 4 月 | グエン・ディン・ツー原子力委員長(当時)の来日。当時はカンボジア侵攻問題あり、政府間では受入れ難しく、原産で受け入れた。民間関係者との懇談のほか、RCA/UNDPプロジェクト関連施設の視察をした。 |
| 平成 4 年 1 1 月 | 訪ベトナム原子力専門家視察団(団長 安 成弘原産常任相談役)を派遣。原子力関係の現状視察を通して、人材養成をふくむ今後の開発計画立案上の問題について、助言と意見交換をした。 |
| 平成 7 年 3 月 | 第 6 回アジア地域原子力協力国際会議に出席(ベトナム初参加)のため、チャン・フー・ファ原子力副委員長、ブイ・ヴァン・チュアン副理事長が来日。 |
| 平成 7 年 4 月 | グエン・ディン・トゥ原子力委員長が第 2 8 回原産年次大会での講演のため、来日。 |
| 平成 7 年 1 月 | 第 1 0 回東南アジア原子力協力代表団を派遣 |
| 平成 8 年 1 月 | 第 1 1 次東南アジア原子力協力代表団を派遣 |
| 平成 8 年 3 月 | 第 7 回アジア地域原子力協力国際会議に出席のため、チュ・ティエン・ハー科学技術環境省次官、グエン・ティエン・グエン原子力委員会理事長が来日。 |
| 平成 9 年 3 月 | 第 8 回アジア地域原子力協力国際会議に出席のため、チュ・ハオ科学技術環境省次官、グエン・ティン・グエン原子力委員会理事長、チャン・ミン原子力研究所所長が来日。 |
| 平成 1 0 年 2 月 | 第 1 3 次東南アジア原子力協力代表団を派遣 |
| 平成 1 0 年 3 月 | 第 9 回アジア地域原子力協力国際会議にグエン・ティン・グエン原子力委員会理事長、グエン・チョン・チャン人事・総務部長来日 |
| 平成 1 0 年 8 月 | 加速器の技術と応用に関するセミナーをハノイで開催(団長平尾 泰男放医研顧問) |

以上

(産業界の交流)

(東芝)

- ・'97年5月：初めてベトナム・ハノイにおいて原子力プレゼンテーションを実施
- ・'97年9月：原子力研修団受入れ
- ・'97年11月～'99年3月：(社)日本プラント協会と Possibility Study(P/S)を実施。

(原電)

- ・'97年12月ベトナム原子力委員会(VINATOM)にて3日間のプレゼンテーション実施
ー炉形、立地、経済評価等の F/S について

以上